

子どもの初陪餐に向けてのカリキュラム試案

★目 標

- ① 神の恵みによって生かされている喜びを知る。
- ② 聖別されたパンとぶどう酒は特別な食べ物であることを知る。
- ③ 陪餐によってキリストや世界の人とつながることを共に喜ぶ。

★用いる場合の注意

- ① このカリキュラムを用いる対象年齢
だいたい小学校高学年（小4以降）の子どもを想定している。
- ② このカリキュラムの性格
目標を達成するための指針であり、最低限の骨子としての案である。
- ③ 指導者に期待されること
該当者の年齢には大きな幅があり、実際には当該の子どもと教会の状況によって、牧師や直接の担当者がいろいろ工夫することを前提として作成している。
- ④ その他
『おいで子どもたち』も合わせて活用されることをお勧めする。また堅信準備と重なる部分もあるので、それぞれの状況に応じて用いていただきたい。

***** カリキュラムの例 *****

1) 「^{ばいさん}陪餐」とはどういうことでしょうか。

- * 聖餐式の中で聖別されたパンとぶどう酒は、イエスさまの体と血です。
- * 陪餐とは、イエスさまの体、血であるパンとぶどう酒をいただくことです。
- * わたしたちがイエスさまの体と血であるパンとぶどう酒をいただくとき、イエスさまはわたしたちと一緒にいてくださいます。

「わたしは天からくだってきた生きたパン、命のパン」

「わたしを食べ、わたしの血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない」

(ヨハネ 6:51～)

2) 洗礼とは？

- * 神さまの無条件の愛と恵みに信頼してその愛と恵みを受ける「しるし」です。その「しるし」を通して、イエスさまの永遠の命を受け、イエスさまとともに生きるための人生の始まりスタートです。神さまの愛と恵みには区別や差別がないので、赤ん坊や幼児も洗礼を受けます。洗礼を受けた者が「クリスチャン・キリスト者」と呼ばれます。つまり、イエス・キリストにならい、従って生きる「しるし」です。

ex. マタイ 28:19～、ローマ 6:2-14、ヨハネ 3:3～6、テトス 3:5、I コリント 12:13、
ローマ 11:17、ガラ 3:27、コロサイ 3:9-10、エフェ 4:22-24、II コリント 5:14
～19、

3) イエスさまの地上の最後の食事は？

- * わたしたちが**陪餐**をする礼拝を「**聖餐式**」と言いますが、イエスさまの地上の「最後の食事」が、「**最初の聖餐式**」でした。人々と共に食事をするのが大好きだったイエスさまの地上の最後の食卓は特別なことでした。イエスさまは食事の中で、パンをとり、「これがわたしの体」、ぶどう酒のさかずきをとり、「これがわたしの血」と言われました。ですから、そのパンとぶどう酒をいただくことによって、わたしたちはイエス・キリストにつながり、イエス・キリストがわたしの中に生き続け、イエス・キリストにつながるすべての人びともわたしの中に生きる、ということです。何とステキなことでしょうか。

4) 神さまの命を受けて

- * **洗礼**も**陪餐**も、それによって、神さまの命をいただくということです。洗礼によってわたしたちは「**聖霊**（神さまの息）」を受けました。そしてイエスさまは、わたしたちを養う食べ物である、パンとぶどう酒としてわたしたちのところに来てくださいます。それが**陪餐**です。そのことによって、私たちは本当に生きることができし、また今も生きているのです。

5) **陪餐**のしかた。

- * それぞれの教会の方法に従って、牧師からお伝えします。

以下は必要に応じて用いることができます。

6) 神さまとは、どういう方でしょうか。

- * 天地の創り主、宇宙全体を造られた方。
- * 自然のすべての一つ一つを「よし！」として造られた方。
- * その造ること・創造の最後に、わたしたち人間を「よし！」として造られた方。
- * しかも、ご自分に似た者として（**似姿**）として造られた。
- * ご自分が造られたすべてのものをご覧になって、「極めてよかった」と言われた方。
（「造る」とは、ことばによって呼び出す、ということ。）

ex. 創世記 1：1～、

7) イエスさまとはどういう方でしょう。

- * 神さまの「ひとりご」。わたしたち人間はすべて神さまの子どもですが、イエスさまはたった一人の特別な子ども。神さまから、人間にくださったすべてのものの中で、最良の、一番良い！贈り物、つまりプレゼント。
- * 誰よりも子どもが好きで、子どもを誰よりも本当に大切にされた方。
ex. マルコ 9：35～、10：13～、マタイ 18：1～、マタイ 19：13～、
ルカ 9：46～、ルカ 18：15～

8) イエスさまのされたことは？

- * イエスさまは病気の人、障害のある人、差別されている人、すべて辛さと苦しさの中にある人たちを、いやし、回復させ、立ち上がらせました。つまり、「神さまの無条件の愛」を、言葉と行いによって伝えられ、最後は、そのことを、ご自分の命を十字架の上に犠牲にして伝えてくださいました。

9) 教会とは？

- * 神さまは、この世界でいつも人間と共に働くために、人間に呼びかけ人間を求めておられます。自分がそのように「呼ばれている」と思い、その声と呼びかけを受け取った人たちの集まりが教会です。教会という言葉のもともとはこの「呼ぶ」という言葉です。
- * そしてイエスさまはその教会の頭かしらです。イエスさまは、神さまの特別な子どもで、わたしたちも神さまの子どもなので、教会は「神さまの家族」です。このようにわたしたちは教会と教会の頭かしらであるイエスさまを通して、神さまにつながるのです。
ex. マタイ 16：18、エフェソ書 1：22～、5：23～など

10) お祈りとは？

- * 神さま、イエスさまとの日々の会話です。家で親などの大人にいろいろなことを語りかけるのと同じです。ですから、神さまもイエスさまも、いつでもどこでもどのような時にも、あなたが「語って、話しかけて」くれることを願い、待っておられます。
- * いろいろなあいさつ、（おはよう、行ってきます、ただいま、おやすみなさいなど）、感謝（食事の時、うれしいことなど）、報告（あのね、今日ね・・・）、願い（他の人、困っている人、辛い人、病気の人などのため、自分の家族のため、自分自身のため、など）、そして疑問（どうして？なぜなの？）すべてが、祈りです。

11) 「主の祈り」を祈りましょう。

- * 「主の祈り」は、イエスさまご自身がわたしたちにくださった特別な祈りです。ですから、礼拝でも、いろいろな集まりでも、キリスト者はいつもこの祈りを唱えます。
ex. マタイ 6：9～、ルカ 11：2～

12) イエスさまは今も生きておられる。

- * 地上の目に見える命には、かならず終わりがあります。イエスさまも一度は、十字架の上で死なれました。しかしイエスさまは墓の中で、神さまから地上の命とはちがう「新しい命」を与えられました。その「新しい命」によって、今も、いつでもどこでも、生きてはたらいておられるのです。ですから、イエスさまに従い続けるわたしたちもまた、イエスさまのように地上の命の終わりは終わりではないのです。

ex. 福音書の復活の記事